

公共702 シラバス(指導計画案) 2単位 70時間

学習の目標
 学習を通じて、現代社会の諸課題についての基本的な知識を身につけるとともに、課題の解決のために主体的に考え判断する能力を身に付けることを目指す。社会課題に対する見方、考え方はさまざまあり多面的であることを重視し、その複数性の中で生徒が自分で考え対話を通じて、合意形成を目指す、公共的存在としての能力を養うことにとくに重点を置く。
 これを達成するために、さまざまな社会問題を身近な話題に引き付けて考えるテーマ学習を豊富に設定している。主体的、対話的な授業を通し、生徒が社会参画者であることの自覚を深めることを目標とする。

月	学習項目	時数	学習のねらい	留意点	評価規準				
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	第1章 公共の扉		<p>■第1章の狙い 公共的な空間と人間の関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性などに着目して、社会に参画する自立した主体とは何かを問う。人間は個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに対話を通して互いの立場を理解し高め合う存在であることを理解する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が公共的空間の主体となり、自分のキャリア形成とともによりよい社会の形成に結びつくことについて理解する。 ・選択・判断の手がかりとして功利主義、義務論などの考え方について理解する。 ・個人の尊重、民主主義、法の支配、自由と責任など公共的空間における基本原理について理解する。 	地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現すること。	よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、公共的空間に生きる人間としてのあり方生き方について自覚を深めている。		
4月	第1章 公共の扉 公共と人	1	人は一人では生きられない	1	ドラえもんのマンガを手掛かりに、人と人のつながり、青年期の葛藤などについて考察する。さらに自己形成がうまくいかなかった場合に陥りやすい他者の排除を避けつつ、アーレントの思想をもとに誰もが自由に生きられる公共的空間の重要性について学ぶ。	抽象的な概念を、生徒が実感できる具体的な事象に落とし込んで理解させる。たとえば、いじめや差別がなぜ起きるのかについて、考えさせたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期が人生において持つ意味を理解している。 ・アイデンティティの確立と、画一性による他者排除の相違について理解している。 ・アーレントの複数性・活動・公的領域などの概念を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共的空間とはどのような空間か自分の体験や具体的な事例に基づき思考している。 ・自らの自我について、マズローやエリクソンの理論の基づき適切に表現している。 	多様な人間と協働する公共的空間の担い手としての自覚を深めている。
		2	人はどのようにつながるのか	1	アダム・スミス、リカード、マルクスなど経済学から「交換」による人と人のつながりについて学ぶ。交換には「贈与」と「市場交換」の二種類があり、このバランスをどう取るかという、資本主義社会における普遍的な課題について考察する。	市場交換、資本主義の肯定的な側面と否定的な側面に注目させる。否定的な面をどのように克服すべきか、国家が果たしている役割などについて理解させる。ソーシャルビジネスについては、企業のSDGsへの取り組みも関係させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・交換により人と人がつながっていることを理解している。 ・交換と贈与の違い、それぞれの利点と弱点について理解している。 ・古典経済学の労働価値説について理解している。 ・NPOなどの慈善団体とソーシャルビジネスの違いについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験に基づき、交換と贈与について表現できる。 ・グローバル化した資本主義がもたらした功罪の両方について判断し表現している。 	将来自分が働くことを想定し、自分の労働力をどのように生かすべきか自覚を深めている。
		3	自由と正義の実現を目指して	1	ヘーゲル、アダム・スミス、ロールズの思想の基本を学びつつ、自由と正義についてどのような違いがあるかに注目させる。とくに「弁証法」、「自由放任」、「格差原理」などの概念は、公共的空間を形成するうえで重要な知識として習得させる。	具体的な政策、社会現象などをまじえ、理解を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘーゲルの弁証法、アダム・スミスの自由放任、ロールズの格差原理などの概念を理解している。 ・自由と正義について、国家、市場、人間の本性、歴史などさまざまな観点があることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がどの思想家の理論に共感したか、その理由を表現している。 ・リベラリズムとリパタリアニズムの相違について説明できる。 ・弁証法を時事問題にあてはめ思考している。 	自由で公正な社会を実現に向けて主体的に思考している。
		4	対話から生まれる公共	1	公共とは対話を通して、作り上げるものであることを学ぶ。対話を行うためには、自由に意見を述べる「場」が必要であることを、ハーバーマスの思想を参照しつつ理解させる。さらに公共的空間、対話、合意形成などを、より具体的にイメージさせるために文化や芸術に関する日本の俳諧サークルに注目させる。	生徒が日常的に行っている「会話」と「対話」の差異から考えさせるのもよい。どのような場面で対話的理性が必要となるか、具体的に学校生活の中で意見の相違が起こる場面などを想定させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーバーマスの対話的理性、公共圏の概念を理解している。 ・対話や熟議を実践する条件について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見の異なる相手との対話実践ができる。 ・相手の意見を受けて自分の考えを述べることができる。 	対話によりコミュニティや社会をよりよいものしていこうという意欲が見て取れる。

		5	日本の公共思想	1	日本と欧米の公共概念の違いに注目し、近代日本において欧米型の公共圏がどのように形成されていったかを学ぶ。また柳田国男の民俗学を通じて、伝統的な日本人の倫理的規範や価値観がどのようなものであったか学習する。	日本における公共圏が幕末から明治にかけて、どのように形成されていったかを時系列で理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本における「おおやけ」と欧米における「パブリック」の違いについて理解している。 ・幕末から明治にかけての公共的政治機構の発展について理解している。 ・柳田国男の「氏神信仰」について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の日本社会の公共的なあり方は先人の政治的取り組みの成果であることを表現している。 ・伝統的な生活文化が私たちの日本人の価値観や倫理観を規定している点を表現している。 	歴史の流れの中に私たちは生きていて、公共的空間を未来へつないでいく存在であるという自覚を持っている。
			Seminar 日本の伝統思想と外来思想の需要 宗教と人間	1	江戸、明治、戦中戦後の主な思想家の概要を理解させる。世界の三大宗教についての基礎的な知識を習得する。	日本の文化や伝統が、外来思想の影響を受けながら、どのように形成されてきたかという点に着目させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の代表的な思想家について基礎的な知識を習得している。 ・仏教、キリスト教、ユダヤ教、イスラームについて基礎的な理解ができていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外来思想の影響を受けつつ、形成されてきた日本独自の思想について思考している。 ・各宗教の相違について思考している。 	思想書や宗教について関心を持ち原典にあたる意欲がある。
			WORK SHOP 高校生が地域住民とつくる公共圏	1	高校生も地域社会のメンバーであり、学校運営も公共的活動の一部であることを理解させる。また問題が起こったときに、どのように合意を形成し解決していくか、実例を参照し学習する。	p.12-13で学んだ「対話的理性」の高校生による実践事例として考えると理解が深まる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域社会との関わり方について理解できている。 ・丁寧な対話が問題解決の糸口であることが理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「公共と人」で学んできた知見が、自分の生活のなかで、どのように活かされるか思考している。 	自らの学校が地域社会に与える影響について具体的に思考している。
5月	第1章 公共の扉 「公共と倫理」	1	功利主義と義務論	1	トロッコ問題を手掛かりに、ベンサムが唱えた功利主義とカントの義務論という倫理学における二つの考え方を学習する。	「最大多数の最大幸福」という「結果」を重視する立場と、行為の「動機」を重視する立場、倫理学において二つの考え方があがるが、現実の政策や行為では、二者択一ではないことにも留意する。またトロッコ問題の解決案についてはp.27のコラムを参照する。	<ul style="list-style-type: none"> ・功利主義と義務論の相違について理解できている。 ・感性と理性の相違について理解している。 ・「最大多数の最大幸福」の弊害について理解できている。 ・ベンサムとミルの功利主義の相違について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会現象や政策判断を、功利主義、義務論の考え方に基づき表現している。 ・功利主義の課題をどう克服するか質的功利主義などを手掛かりに思考している。 ・義務論に基づく社会がいかんして可能か思考している。 	学習した内容を自らの倫理観、過去の行為に照らし合わせ、思考している。
		2	水俣病を考える	1	水俣病が戦後の日本社会や政策に与えた影響を理解させる。経済成長と環境汚染がトレードオフの関係にあり、これをどう解決するかが、現代においても重大な課題であることに注目させる。	功利主義と義務論の思想を、水俣病の問題にあてはめて考えさせることにより、具体と抽象的思考の往復を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・経済成長と公害の相反関係について理解している。 ・人間の尊厳が失われる痛みについて共感している。 ・公害訴訟によって法律や行政がどのように変化したか理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水俣病について、功利主義と義務論の考え方をを用いて表現している。 ・多数派の利益と少数派の犠牲という功利主義の問題点について思考し表現している。 	自立した主体として公害のような社会問題にどのように向き合うべきか自覚を深めている。
		3	地球温暖化問題	1	地球温暖化により、どのような問題が起こっているか、またこれを解決するために行われている国際的な取り組みなどについての知識を習得する。日本がどのような方針に基づきエネルギー政策を進めているかを学ぶ。	地球温暖化は高校生が生きる数年後の未来に直結した課題であることを指摘し、当事者として主体的に考えることを促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化の原因について理解できている。 ・温暖化防止のための取り組みについて理解している。 ・世界の先進国と日本のエネルギー政策の違いについて理解している。 ・先進国と途上国の立場の違いを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本がどのような方法でCO₂を削減できるか思考している。 ・地球温暖化問題について、自分の身の回りの生活と、世界規模の視点の双方の観点から、考えを表現している。 	CO ₂ 削減のためには、一定程度の負担を引き受けることが必要であることを認識し、当事者として何をすべきか思考している。
		4	誰が医療を支えるのか	1	日本の医療制度は国民の「支え合い」により成り立っていること、少子高齢化により維持が困難な局面にあることを理解させる。医療制度を維持するために、誰が医療費を負担すべきか検討する。	功利主義、義務論の考え方をうい医療費問題にあてはめ、倫理的な課題として扱う。	<ul style="list-style-type: none"> ・医療を受ける人と、医療費を負担する人が必ずしも同一ではない現在の日本の医療制度を理解している。 ・医療費が年々増加している理由について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の医療制度と比較して、日本の制度がどのように異なるか考えている。 ・「すべての人に等しい医療を」という理想と「少子高齢化・人口減少」という現実とのはざまで、自分の考え方を表現できている。 	5年後、10年後の人口分布を想定し、主体として医療制度問題に向き合っている。

第1章 公共の扉 公共の基本原理	1 生徒会予算をどう分配するか	1	生徒会予算の分配方法を通じて、公正、公平についての考え方が立場の違いによりそれぞれ異なることを理解させる。実際に授業で討議・対話を実施し意見の異なる相手と、どのように合意形成するかを学ばせる。	表内のAからEの選択肢と政治思想との近似性に着目させる。(A: 新自由主義, B: 社会主義, C: リベラリズム, D: 共同体主義, E: リバタリアニズム)	<ul style="list-style-type: none"> 自分にとって有益な選択肢を主張するだけでなく、不利益をこうむる他者への配慮がある。 異なる意見を持つ他者の考え方を理解しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共的な観点から、表内の選択肢について自らの考えを表現している。 表内の反論に対して、自らの考えを表現している。 	相手の意見を聞き、複数の選択肢を横断し、最適な解を模索している。
	2 意見が分かれたときにどう決めるか コラム 生徒会と民主主義	1	意思決定方法にはさまざまな方法があることを学び、民主主義の基本的な仕組みを理解させる。	単純な多数決による決定は問題があることに留意させる(多数決の専制)。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会運営を通じて、政治の意思決定や合意形成の方法など民主主義社会におけるさまざまな仕組みを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 民主主義のさまざまな制度がなぜ必要なのか、表現できている。 多数決の弊害(少数派の抑圧)をどのように回避できるか思考している。 	自らが共同体のメンバーであり、政治的主体であるという自覚をもっている。
	3 民主政治の歴史	1	近代ヨーロッパで、どのように民主政治が形成されてきたかを学ぶ。社会契約説と市民革命の関係に着目させる。	「国家権力を抑制し、市民の権利を守り社会を営む」という視点から各思想家の考え方や市民革命について捉えるよう留意する。	<ul style="list-style-type: none"> 社会契約説、自然権、三権分立など民主政治の重要概念を理解している。 マグナカルタから世界人権宣言にいたる人権をめぐる世界史の流れを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人と国家の関係を契約という視点から捉え思考、表現している。 	自らが持っている人権(自然権)について自覚を深めている。
6月	4-1 日本国憲法の三つの原理	1	国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の憲法の原理についての知識を習得している。	憲法とは国家権力を縛り、国民の権利を守るためのものである点を強調する。	<ul style="list-style-type: none"> 大日本帝国憲法と日本国憲法の相違点を理解している。 国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、憲法の3つの基本原理について理解している。 憲法改正の手続きを理解している。 違憲審査権と憲法の関係について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 立憲主義の意義について適切に表現できている。 憲法改正の是非について、自ら思考している。 	巻末の日本国憲法の条文を読み、より理解を深めようとしている。
	4-2 基本的人権の尊重 平等・自由・義務	1	法の下での平等、自由権、社会権などの基本的人権はすべての人間が持っており、憲法がそれを保障していることを学ぶ。	自由が公共の福祉のために制限される実例として、コラム内のコロナ禍の政策を例に説明する。	<ul style="list-style-type: none"> 憲法で規定された国民の権利と義務について、体系的に理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自由権と社会権の相違について表現している。 権利の衝突に際し「公共の福祉」の概念が、どのような役割を果たすか思考している。 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな基本的人権について、権利主体として自覚しつつある。
	5-1 大学入試と男女差別	1	大学入試における女性差別事件に注目し、なぜそのようなことが起こったのか、考えさせる。男女平等の実現が別の社会課題の解決の妨げになるという問題の構造を学習する。	積極的差別是正措置が法の下での平等に反するという考え方に注目させ、何が公正・平等かという深い思考を促したい。	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試の公正・平等について形式的平等、実質的平等、法の下での平等、社会に与える影響など多角的に理解している。 アファーマティブ・アクションがなぜ必要とされるのか、またその課題点について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 囲み内のA B Cの選択肢に基づき、自らの考えを表現している。 	大学入試における公正・平等とは何か、当事者として思考しようとしている。
	5-2 なぜ女性医師が日本では少ないのか	1	医療現場の実態を例に男女平等参画社会の実現のために、何が必要なのかを考えさせる。	男女差別の問題を「通時的」に捉えるか「共時的」に捉えるかで、平等・公正・正義の捉え方も変わる点に注目させる。「DI SUCESSI ON」ではこの点を踏まえた議論にしたい。	<ul style="list-style-type: none"> 通時的正義の考え方にに基づき、アファーマティブ・アクションの意義について理解している。 日本社会で女性が働きづらい社会構造について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 女性医師が日本では少ない理由を適切に表現できている。 問題解決のための施策について思考している。 	男女共同参画社会の実現のために、男性・女性がどうあるべきか主体的に受け止めている。
	6 表現の自由とヘイトスピーチ	1	ヘイトスピーチとは具体的にどのようなものか理解させようとして、「表現の自由」と緊張関係にあることを学習する。	SNSでの誹謗中傷が社会問題になっている事例を取り上げて、自分事として考えさせてもよい。	<ul style="list-style-type: none"> ヘイトスピーチが具体的にどのような言動を指すのか理解している。 表現の自由とヘイトスピーチ規制の間のジレンマについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「公共の福祉」の概念を用いて、ヘイトスピーチ解消法について適切に表現している。 表現の自由を法で規制することの危うさについて適切に説明できる。 	ヘイトスピーチ、表現の自由という観点から自らの言動を振り返り自省しようとしている。

		<p>第2章 現代社会の諸課題</p>		<p>■第2章の狙い 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して他者と協働して主題を追究したり、議論を行う学習を通して、合意形成や社会参画への理解を深める。</p>		<p>法、政治、経済などに関わるシステムの下の活動するために必要な知識、技能を身につける。</p>		<p>法、政治、経済を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、その主題解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを論拠をもって表現する。</p>		<p>よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、公共的空間に生きる人間としてのあり方生き方について自覚を深めている。</p>	
6月	<p>第2章 現代社会の諸課題 法</p>	1 法と社会	1	<p>社会が法やマナー、道徳などのルールにより維持されていること、なかでも法が強制力を持ち人を拘束する力を持つことなど法の特徴をつかみ、法の種類、階層関係について学ぶ。</p>	<p>法の限界、法治主義の問題点などについて着目し、法が万能ではない点に留意させる。</p>	<p>・法と道徳との相違点について理解している。 ・日本の法体系、法の種類、法の対象について理解している。 ・「法の支配」と「法治主義」の相違点について理解している。</p>	<p>・法の限界を理解し、法の実効性を高めるための手段について思考している。 ・よりよい社会の実現のために法がどのような機能を果たしているか表現している。</p>	<p>法について関心を持ち、巻末の法文にあたりようとしている。</p>			
7月		<p>テーマ学習① 「忘れられる権利」は認められるべきか？</p>	2	<p>インターネットという新しい公共空間において法がどのように適用され、自由と正義の実現を目指しているか学習する。</p>	<p>「忘れられる権利」とは、該当記事そのものの削除ではなく、検索結果の不表示を求めている点に留意し、インターネットの仕組みについての理解を促す。</p>	<p>・「忘れられる権利」と「表現の自由」および「知る権利」がどのように衝突しているか理解している。 ・2017年に最高裁判所の示した基準について読み取っている。</p>	<p>・検索エンジン会社の「表現の自由」の権利について思考している。 ・DI SCUSSI ONの問いについて、犯罪の軽重や性質、当事者の社会的立場などを勘案して、「忘れられる権利」について判断している。</p>	<p>自分の名前などをインターネットで検索し、好ましくない情報が表示された場合を想定し、この問題について主体的、具体的に考えようとしている。</p>			
		<p>テーマ学習② 男女平等は法で実現できるか？</p>		<p>憲法に規定されている男女平等という価値が、雇用・労働において具体的にどのような法律により実現されてきたかを学ぶ。</p>	<p>男女雇用均等法が女性労働者の訴えにより度々、改正され今に至っている点に留意。</p>	<p>・男女雇用機会均等法の改正や、さまざまな裁判の判決により、男女の雇用格差がどのように変わってきたかを理解している。</p>	<p>・男女平等における積極的差別是正措置の是非について、現在の日本の状況を理解し、自らの意見を表現している。</p>	<p>DI SCUSSI ONを参照し、法の下での平等に関する違憲判決を調べている。</p>			
		2-1 多様な契約	1	<p>社会生活を営むうえで、私たちはさまざまな契約を結んでいることを理解させる。契約が法的根拠をもつこと、また契約を取り消すための仕組みについて学習する。</p>	<p>2022年から成年年齢が18歳に引き下げられたことで、何が変わったのか、また変わらないのかに留意。</p>	<p>・契約が当事者の同意により、成立することを理解している。 ・契約を取り消すことができる条件について理解している。</p>	<p>・なぜ成年年齢が20歳から18歳に引き下げられたのか思考している。 ・自らの体験に基づき、契約や契約取り消しについて表現している。</p>	<p>18歳成年について自らが近く持つ権利と、責任について自覚を深めている。</p>			
		2-2 消費者の権利と責任	1	<p>消費者がさまざまな法律により守られていること、一方で責任ある消費行動が求められていることを学習する。</p>	<p>近年、若年層の被害者が増えているインターネットやスマートフォンを使った詐欺などに注意を促す。</p>	<p>・消費者を守るための法律や組織の役割について理解している。 ・「問題商法」、「自立した消費者」についての知識を習得している。</p>	<p>・企業と消費者の関係について理解し、なぜ消費者を守る法や組織が必要なのか、説明できる。 ・消費が社会や環境に与える影響について具体的に表現している。</p>	<p>よき消費者として、どう行動すべきか自覚を深めている。</p>			
		<p>テーマ学習① なぜ未成年は自由に契約できないのか？ ※テーマ学習は①②のいずれかを選択。</p>	1	<p>契約とは自由意思の一致（合意）に基づくが、未成年は法的には意思能力が未熟であると規定されている点について考えさせる。また「私的自治の原則」と、法の関係について学習する。</p>	<p>生徒にとって具体的な状況を例に出して、理解させやすくする。</p>	<p>・日常的に行っている売買なども法に基づき、定義されている点を理解している。 ・自由な意思に基づく契約と、不完全な意思に基づく契約の相違について理解している。</p>	<p>・なぜ未成年者が自由に契約できないのか、意思と合意による契約の仕組みをもとに、説明できる。</p>	<p>未成年である自分の意思が、どのような場合に不完全であると見なされるのか、具体的に思考している。</p>			
		<p>テーマ学習② 消費者はどのように保護されているのか？ ※テーマ学習は①②のいずれかを選択。</p>		<p>クーリング・オフの適用条件について理解させる。またその背景にある消費者保護、消費者自立の考え方を学習する。</p>	<p>薬害エイズ問題などを例にとり、消費者問題の重要性を認識させる。</p>	<p>・消費者の権利と自己責任について理解している。 ・クーリング・オフに関する知識を習得している。 ・「情報の非対称性」について理解している。</p>	<p>・DI SCUSSI ONの問いについて思考したり、調査したりしている。</p>	<p>自らの消費活動を省みて、自立した消費者としての自覚を深めている。</p>			

9月	3-1 日本の司法制度	1	三権分立において司法権の果たしている役割を理解させる。とくに裁判所が国会に対して持つ「違憲審査権」の重要性を理解させる。	最高裁判所の違憲判決や、また合憲判決を例に出して解説するとよい。	<ul style="list-style-type: none"> 三権分立における司法の役割を理解している。 裁判の公正さを保つためのさまざまな制度改革について理解している。 最高裁判所の違憲判決を読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 司法に関するさまざまな仕組みを裁判の公正性という観点から表現している。 	憲法訴訟について自ら調べ、違憲、合憲の判決について思考しようとしている。	
	3-2 国民の司法参加	1	裁判員制度がなぜ導入されたのか、目的と意義を理解させ、国民審査や検察審査会など市民が司法参加するさまざまな制度を学習する。	裁判員制度が、現状抱えている問題点についても指摘する。	<ul style="list-style-type: none"> 裁判員制度、国民審査、検察審査会制度、被害者参加制度などについて個々の仕組みと目的を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 司法の場において、市民が主体的に関わり、裁判員としての役割を果たさなければならない理由について思考し、表現できる。 	18歳に達し裁判員に選ばれる可能性を考慮し、裁判について主体的に思考している。	
	テーマ学習① 刑事裁判と民事裁判の違いは何だろうか？	1	刑事裁判と民事裁判の目的や、手続きの違いに注目し、司法制度の意義について理解を深める。また刑罰の捉え方にも2つの考え方があり、どちらを選択すべきか、主体的な思考を促す。	刑事事件における適正手続きの保障と、罪刑法定主義について留意する。	<ul style="list-style-type: none"> 刑事と民事裁判がそれぞれ誰が何を争い、判決が何を目的にしているのか、違いを理解している。 刑罰が何を目的にするのか、応報刑論と目的刑論の違いを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 同一事件における民事責任と刑事責任の違いについて説明できる。 死刑制度について廃止すべきか否か、刑法論に基づき自らの考えを述べることができる。 	裁判の報道などに関心を持ち、判決や量刑が妥当かなどについて関心をもっている。	
	テーマ学習② なぜ疑わしいときは被告人の利益とすべきか？		18歳に達し裁判員に選ばれたとき、どのような考え方で裁判に臨むべきかについて学ぶ。無罪推定の原則がなぜ裁判に必要なのか、冤罪の危険を認識し、合理的な判断ができるよう刑事裁判における基礎となる原則を理解させる。	刑事裁判においては有罪を証明する必要があるが、無罪を証明する必要がないという点に留意する。	<ul style="list-style-type: none"> 無罪推定の原則の背景にある、国家権力と基本的人権のかかわりについて理解している。 刑事手続と刑事裁判の法的手続について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 検察官と被告人の非対称性、有罪と無罪の判断基準の相違に注目し、裁判員に必要とされる考え方を適切に表現している。 	被告人＝犯罪者という先入観にとらわれず、裁判について冷静な視点を持つようとしている。	
10月	第2章 現代社会の諸課題 政治	1-1 選挙と政治参加	1	民主政治の基礎を支える選挙の仕組みについて学習し、さまざまな制度がなぜ必要とされるのかを理解させる。また民主主義を維持していくために私たちの主権者としての自覚が重要である点を強調する。	さまざまな選挙制度については知識として習得するだけでなく、制度の背景にある考え方で理解させたい。	<ul style="list-style-type: none"> 民主主義とは、国民に主権があるという基本的な考え方にに基づき、これを実現するためにさまざまな選挙制度や法律があることを理解し、その内容を読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の選挙制度についての利点と難点を、民意をよりよく反映させるという観点から説明することができる。 	選挙に関心をもち、18歳になるときを想定して、主権者としての自覚を深めている。
		1-2 公正な世論の形成	1	多様な意見を集約し法律や政策を決定していくために、複数の政党が競い合う政党政治あることを理解させる。また世論とは何か、ポピュリズムの問題点、メディアやSNSが政治にどのように関係しているかなどについて学習する。	SNSと世論の関係は今後、深まっていくことが予想されるので情報リテラシーについて深い理解を促す。	<ul style="list-style-type: none"> 政党政治がなぜ必要とされるのか、表現の自由、知る権利は政党政治とどう関係しているのかを理解している。 世論がどのように形成され、政治に影響しているのかという基本構造を理解し、その問題点を読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の日本の政党政治について具体的に説明できる。 政治的無関心を防ぐために、どのような意識が重要か、主権者として思考している。 	政党に関心を持ち、たとえばコロナ対策について各党の政策の違いなどについて調べ、主権者として政治を見ようとしている。
		テーマ学習① 日本の若者の投票率はなぜ低いのか？	2	日本のとくに若年層の投票率が低い原因について考える。まだ投票権を持たない高校生が政治参加する手段としてどのような方法があるかを学び、主権者としての自覚を持つよう促す。	学校教育における政治的中立性とはなにか、そもそも教員が中立的であることは可能かというメタ的な問いは、主権者教育そのもの関わる重要な課題である。教員が考える問題だが生徒の考えを聞いてみるのもよい。	<ul style="list-style-type: none"> スウェーデンと日本の主権者教育の考え方の違いに着目し、双方の利点、難点を理解している。 請願制度を通じて、高校生も地域社会の主権者であり権利者であることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 投票率を高めるための方策を、主権者教育と、教育の中立性のジレンマを把握した上で、自分の考えを表現している。 政治的主体として具体的に何ができるかを思考している。 	なぜ日本の若者の政治的関心が低いのか、当事者として問題を捉え、思考している。
		2-1 国会と内閣	1	国民主権の原則の下で国会が国政の要であることを理解し、立法の手続き、議員内閣制、行政の仕組み、三権分立について理解を深める。	官僚主導から政治主導へという現在の政治状況を踏まえ、なぜ官僚政治が批判されるのか、立法と行政の関係について考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 国会の仕組みや立法手続き、行政組織、三権の均衡など基礎的な知識を習得している。 官僚が権力を持つことの問題点を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 国会と内閣および行政組織の関係を理解したうえで、官僚政治の問題点、政治主導に転換した現在の課題点について思考し表現している。 	私たちの民意を実現するために、よりよい政治の仕組みを考察しようとしている。

<p>2-2 地方自治</p>	<p>1</p>	<p>地方自治は私たちの生活に密接に関係しており、さまざまな直接民主制の仕組みが採用されていることを理解させる。そのうえで財政問題、地方分権の課題などを学習していく。</p>	<p>コロナ禍の政策決定ではかつてないほど、自治体の首長の判断に注目が集まった。コロナ禍で地方自治体が果たした役割を例に説明すると理解しやすい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二元代表制、直接請求権など国政とは異なる地方自治の直接民主主義の仕組みを理解している。 ・ 地方分権を目指したさまざまな改革の内容と、地方自治が抱える課題について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方自治で住民がもつさまざまな権利、地方自治体が抱えている課題などについて表現している。 	<p>地元地域の地方自治に関心を持ち、どのような政策を推進しようとしているか知ろうとする意欲がある。</p>
<p>テーマ学習 「国民投票」は本当にベストな方法か？</p>	<p>2</p>	<p>みんなの多数決による意思決定は民主主義の本位に沿っているにも関わらず、結果としてさまざまな問題が起こる。その矛盾について学ぶ中で民主主義のあるべき姿について考察を深めていく。</p>	<p>数による単純な多数決が民主主義の本質ではないこと、少数派の意見も尊重し公正を追求することが困難だが重要であることに留意。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政策決定を民意に委ねたときに起こりうるさまざまな問題点を理解している。 ・ 民主主義において対立が必然的に起こり、国民投票による合意形成が容易ではないことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国民投票は合理的、効率的ではあるが、平等で公正な結果をもたらすとは限らないという課題について思考している。 	<p>少数派の権利が侵害されないように、合意を形成するための方法を模索しようとしている。</p>
<p>3 国家主権と領土</p>	<p>1</p>	<p>国家の要件、国家間の紛争解決手段、現在日本が抱えている領土問題などについての知識を習得し、日本と国際社会がどのような関係にあるか、どのような課題があるかを学習する。</p>	<p>竹島、尖閣諸島、北方領土問題については正確な知識を習得させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 領域、国民、主権の国家の三要件について正確に理解している。 ・ 国家と国家の関係を定めている国際法、条約について歴史的経緯を含め理解している。 ・ 日本の領土問題に対して日本政府が示している方針を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家とは何かという抽象的な見方・考え方にに基づき、具体的な領土問題、日本人拉致問題について思考している。 	<p>日本は近隣諸国との摩擦をどのように解消すべきかという問題について思考している。</p>
<p>テーマ学習① 国家なき民族、クルド人は独立国家を目指すべきか？</p>	<p>2</p>	<p>クルド人が置かれている困難な状況を例に、国家と民族がどのような関係にあるかについて考える。国民と民族が同一ではないことを理解しつつ、多民族国家がどのように公共圏を構築していくかという問いについて検討する。</p>	<p>日本は単一民族国家と捉えがちだが、アイヌ民族、琉球民族を含む多民族国家である点に留意させる。</p>	<p>クルド人とはどのような民族で、なぜ独立国家を持っていないのか、どのような権利を求めているのか、問題の構造を把握し、国家における少数民族が抱える課題を理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少数民族は独立国家を目指すか、多民族国家での共存を選択するか、双方の選択肢の利点と難点を踏まえつつ、民族と国家の関係について自分の考えを表現している。 	<p>クルド人の他にも存在する世界のさまざまな民族問題について関心を持ち、調べようとする意欲がある。</p>
<p>テーマ学習② 紛争解決のために国際法は有効なのか？</p>		<p>国内法と国際法の違いに着目し、法に基づく紛争解決が国家間でどのように行われているか学習する。武力ではなく司法機関による紛争解決を目指すために国際社会に何が必要か考察する。</p>	<p>国内法が秩序を維持している点に注目し、国際法の効果を高めるために何が必要か、という視点を持たせる。</p>	<p>国際紛争を法により解決しようとしてきた第二次世界大戦後の国際社会の歩みと、国際司法機関の仕組みを理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法による秩序維持を可能にするための条件を考察し、国際法の権威を高めるための方策を考察している。 	<p>日本と周辺地域の摩擦を国際法により解決する方法を模索するなど、習得した知識を応用し、主体的に考察する態度が見られる。</p>
<p>4-1 安全保障と防衛</p>	<p>1</p>	<p>憲法9条の解釈と日本の安全保障政策の変遷を学ぶ。日米安全保障条約、自衛隊の海外派遣、集団的自衛権の容認など日本の安全保障がどのように変化してきたかを見て、現状の課題を学習する。</p>	<p>9条が解釈により適用されてきた経緯は、憲法が解釈次第で実質的な内容を変更できるように思われる。この問題点に留意し、後のテーマ学習へとつなげていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 憲法9条と、自衛隊、日米安全保障条約、集団的自衛権をめぐる、さまざまな解釈と裁判があり、こんにちにいる歴史的経緯を理解している。 ・ 集団的自衛権を行使するため、整備された法律の内容を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 憲法9条と日本の安全保障政策の複雑な関係について理解し表現できる。 ・ 日本の安全保障における課題について思考している。 	<p>平和主義という理念と、安全保障という現実のジレンマのなかで思考し、両立させる道を模索しようとしている。</p>
<p>4-2 21世紀の世界情勢</p>	<p>1</p>	<p>21世紀に入り、大規模な戦争ではなくテロや紛争、それに伴う難民が国際政治の課題になっていることを学習する。また核軍縮をめぐる歴史と日本の立場を学ぶ。</p>	<p>イスラム過激派と、イスラム文化、イスラム教徒一般とは別のものであることに注意を促し、偏見を持たないように留意する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ アメリカ同時多発テロを機に、アラブ諸国で起こった事象を理解している。 ・ 紛争により大量に発生している難民が世界的な課題になっていることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ なぜテロや紛争がなくなるのか、なかでもイスラム圏内で激しい内戦、紛争が起こるのはなぜか思考し表現できる。 ・ 難民の受け入れをめぐる先進国内で紛糾している理由について考察し表現できる。 	<p>難民問題について関心を持ち、日本政府が取っている政策と、その理由などについて調べ、主体的に考察する意欲がある。</p>
<p>テーマ学習① 憲法9条と日本の安全保障をどう両立させるか？</p>	<p>2</p>	<p>4-1の学習内容を踏まえ、テーマ学習の問いを考える。欧州の安全保障の仕組みを参考にしつつ、東アジアで信頼関係に基づく安全保障機構を実現するために必要な条件を、具体的に考察することを目的とする。</p>	<p>東アジアの緊張関係については、現況の国際政治状況を鑑み適宜、補足していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戦後、日本がとってきた安全保障政策について、その政治的背景を含め理解している。 ・ 「共通の安全保障」という概念を理解している。 	<p>憲法9条と日本の安全保障を両立することのジレンマと困難について理解したうえで、課題解決のための手段を思考し表現している。</p>	<p>現況の東アジアにおける安全保障問題について関心を持ち、平和的に解決する方向を模索している。</p>

<p>テーマ学習② 格差是正のために課税すべきか？</p>		<p>p. 130-131で学習した税制の公平性についてより具体的に検討していく。格差是正のための課税強化が市場経済にどのようなプラスの効果とマイナスの効果をもたらすのかについて考えていく。</p>	<p>所得税と資本課税の違いはピケティが示した$r > g$の不等式と関連させて、解説する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本でも格差が拡大していること、課税が所得再分配の役割を果たしていることを図表などから読み取っている。 ・所得税、消費税、固定資産税、相続税、分離課税など税制の特徴をつかみ格差との関係を理解している。 ・ピケティによる格差の分析を読み取り、富裕層への資本課税の必要性について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・増税は格差是正に対して効果を持つが、資本の海外流出、国際競争力や労働意欲の低下を招く可能性があるというトレードオフの関係を理解し、どのような税制が望ましいか思考している。 	<p>p. 10-11「自由と正義の実現」、 「誰が医療を支えるのか」など領域を横断し、見方・考え方を広げようとしている。</p>
<p>4 少子化と社会保障</p>	<p>1</p>	<p>社会保障は国民の生存権を保障するために国が運営している制度であり、社会全体でリスクの分散と軽減を測るために重要な機能を果たしていることを学習する。少子高齢化により、制度の維持が困難になっている点を理解させる。</p>	<p>医療保険、年金保険は仕組みが複雑であるため、図説を用いて視覚的に解説する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度が必要とされてきた歴史的背景を理解している。 ・日本の社会保障制度の基本的な枠組みと具体的な仕組みを理解している。 ・社会保障制度の維持のために、さまざまな議論があることを理解している。 	<p>日本の「国民皆保険」、 「国民皆年金」の考え方を理解したうえで、持続可能な社会保障制度と財源不足のジレンマについて考え表現している。</p>	<p>少子高齢化がさらに進む近い将来に、自らが社会保障費の負担者となることを考慮し、この問題を考えている。</p>
<p>テーマ学習① 小学校・中学校に給食は必要か？</p>	<p>2</p>	<p>学校給食という身近な題材を通して、貧困対策として望ましい政策について検討する。普遍主義、選別主義という二つの考え方が、財の配分をめぐる政策判断の重要な論点であることを学習する。</p>	<p>国民全員を手当する「皆保険制度」と、生徒全員が同じものを食べる学校給食制度を関連づけてもよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絶対的貧困と相対的貧困の違いを読み取り、日本では後者が問題になっていることを理解している。 ・給食制度の貧困対策としての側面に注目し、制度の是非について検討している。 ・普遍主義と選別主義の考え方の違いを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普遍主義、選別主義のメリットとデメリットを考慮し、子どもの貧困対策として学校給食制度について思考し表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・18歳以下への10万円給付をめぐり所得制限を備えるべきか否かという議論などに、見方・考え方を広げ思考している。
<p>テーマ学習② 安定した「年金暮らし」は可能か？</p>		<p>p. 136-137「少子化と社会保障」で学習した年金制度について理解を深める。とくに国民年金、厚生年金、個人型確定拠出年金の特徴に注目し、負担と受給のバランスについて検討する。</p>	<p>生徒は今後、負担増を迫られる世代なので、受給者である高齢者に対する厳しい意見が予想されるが、高校生も将来受給者になることに留意させたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国民年金、厚生年金、個人型確定拠出年金のそれぞれの特徴を理解している。 ・年金が世代を超え長期的に持続可能である必要があることを理解している。 ・「高負担・高福祉」と「低負担・低福祉」という年金制度についての二つの基本的な考え方を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「高負担・高福祉」、 「低負担・低福祉」の考え方にに基づき、基礎年金、厚生年金、個人型拠出年金のいずれを優先すべきか、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層、中年層、引退世代、現役で働いている高齢者、さらに未来の世代などさまざまな立場から年金問題について思考している。
<p>5 市場経済の役割と限界</p>	<p>1</p>	<p>財やサービスの価格は、市場が正常に機能すれば需要と供給のバランスによって自動的に決定される市場のメカニズムを学ぶ。 市場は万能ではなく独占や寡占により自由で公正な競争が阻害されたり、公害などの外部不経済が発生するため、法による規制や公的機関による介入が必要であることを学ぶ。</p>	<p>市場の失敗と格差の拡大を混同しないよう留意する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・需給曲線を読み取り、価格が決定するメカニズムを理解している。 ・市場のメカニズムを阻害する独占や寡占について理解し、これを規制するための法律や仕組みについての知識を習得している。 ・外部経済、外部不経済について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市場のメカニズムを用いて、たとえばコロナ禍でのマスクの高騰など実際の経済現象を説明できる。 ・外部経済・不経済についても同様に具体例を示して表現できる。 	<p>p. 10-11「自由と正義の実現を目指して」、 p. 22-23「水俣病を考える」、 p. 24-26「地球温暖化問題」などと関連づけ市場経済が招く倫理的な問題について思考している。</p>
<p>テーマ学習① コンサートチケットの不正転売は防げるか？</p>	<p>2</p>	<p>p. 144-145で学習した市場のメカニズムの知識を用いて、コンサートチケットを適性な価格で効率よく販売する方法を検討する。公平性と効率性の二つの観点から議論することで、市場のメカニズムが招く、市場の失敗をいかにして防ぐかという考え方を身につける。</p>	<p>p. 145の需給曲線を用いて、ダフ屋の存在を視覚的に解説すると理解しやすい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ダフ屋の転売行為を市場のメカニズムを用いて説明できる。 ・市場のメカニズムで起こる弊害を理解している。 ・さまざまなチケット販売方法の利点と欠点を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公平性と効率性の二つの観点から、チケットの販売方法について考えている。 	<p>アーティスト、ファン、チケット販売業者など複数の視点で、課題を捉えている。</p>

		<p>テーマ学習② あなたの街に「民泊」は必要か？</p>	<p>p. 144-145で学習した市場の失敗、外部不経済について「民泊」の事例を通して理解を深める。インターネットでプラットフォームを介した情報のやりとりが、民泊事業において果たしている役割を学習する。</p>	<p>コロナ禍で民泊は減少しているが、観光業は日本の重要な産業のひとつである点に留意する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民泊の仕組みと仲介するプラットフォームの役割を理解している。 ・民泊がもたらす外部不経済を理解している。 ・民泊を規制する法律について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット上の口コミが、事業者だけでなく利用者も評価対象となっている点に注目し、情報の非対称性という観点からその効果を説明できる。 	<p>民泊は、貸し手と借り手だけでなく、仲介業者、行政、近隣住民などさまざまな関係者がいることを考慮し、経済活動と社会生活の関わりについて思考している。</p>
2月		<p>6-1 金融のはたらき</p>	<p>1</p> <p>金融が家計、企業、政府の間で幅広く行われ、経済活動を支える重要な役割を果たしていることを学習する。間接・直接金融、証券、預金、信用創造など金融市場の仕組みと、企業の会計情報などの知識を習得する。</p>	<p>金融理論や金融市場の仕組みは複雑かつ多面的で理解が難しい。金融の社会的意義をまずは理解させたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・直接金融、間接金融の違いと、銀行、証券会社など金融機関の役割を理解している。 ・企業の会計情報を読み取っている。 ・信用創造の仕組みを理解している。 ・キャッシュレスや暗号通貨、フィンテックについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・金融の仕組みを通じてお金が流れ、経済主体の間を循環していることを表現している。 	<p>預金や株式などに関心を持ち、経済主体としての自覚を深めている。</p>
<p>6-2 日本銀行と金融政策</p>	<p>1</p> <p>日本銀行の特殊な役割を理解させ、金融政策の目的、景気や物価に影響を与えるメカニズムなどの知識を習得させる。さらに日本経済が陥っている長期デフレに対して、日本銀行がとってきた政策を理解させる。金融ビッグバンといわれる金融の自由化、国際化について学習する。</p>	<p>日銀がとっている非伝統的な金融政策は成果が判断しずらく、その妥当性についての見解も定まっていな点に留意する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日銀の三つの役割について理解している。 ・日銀の金融政策と景気変動の関係について理解している。 ・金融自由化、国際化で実施された政策とその効果について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日銀が現在行っている金融政策の内容と目的、その効果について表現している。 	<p>「異次元」、「非伝統的」とも表現される現在の日本銀行が継続している金融緩和に関心を持ち、自ら調べようとしている。</p>		
<p>テーマ学習① 投資家にとって「よい企業」とは【前編】【後編】</p>	<p>1</p> <p>企業に投資するとは、どのような行為なのか、実際の企業の事業内容を例に解説する。投資信託、ベンチャー企業、ESG投資、ダイベストメントなど投資についての知識を習得し、投資家としての主体的に企業を見る目を養う。</p>	<p>投資を個人の資産形成という視点だけではなく、よりよい社会の形成という視点を持たせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・株式投資の基本的な構造を、事業者、投資家の視点から理解している。 ・リスクとリターンについて理解し、投機の危険性について理解している。 ・ESG投資、ダイベストメントなど事業の社会的価値に基づく投資が広がっていることを理解している。 	<p>投資を自らの資産形成と、よりよい社会の形成という二つの視点から捉え説明できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な投資家として企業を見る目線を持ち「良い企業」を見極める方法について思考している。 		
<p>7-1 グローバル化と経済統合</p>	<p>1</p> <p>世界経済が緊密に結びついたグローバル化現象の姿を理解し、相互依存関係が引き起こす影響を具体的に把握する。地域経済統合がもたらすメリットとデメリットを自由貿易、保護貿易の観点から理解させる。</p>	<p>自由貿易、グローバル化が進行している一方で、EUがブレグジットや難民問題など多くの課題を抱えている点に留意する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜグローバル化が進行したのか、その経済的効果を含め説明できる。 ・グローバル化の弊害とこれに対処するための国際機構について理解している。 ・比較生産費説についての知識を習得し、保護貿易・自由貿易について理解している。 	<p>グローバル化による恩恵（もしくは弊害）を時事的な事象や、身近な例を用いて説明、表現している。</p>	<p>日本のさまざまな産業にとって自由貿易、保護貿易、グローバル化がどのような影響を与えるか、多面的に思考している。</p>		
<p>7-2 格差是正と多文化主義</p>	<p>1</p> <p>南北問題、南南問題という地域的格差が生じていることを理解させ、これを解消するためには経済成長が重要であることを学ぶ。国連や先進国による国際機構が格差是正のために果たしている役割を学習する。また文化や宗教の多様性を尊重する多文化主義の考え方を学び、相互理解と寛容の態度を養う。</p>	<p>日本と発展途上国の経済的格差は図表やデータなどを用いて視覚的、直感的に理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・南北問題、南南問題が生じている構造を理解している。 ・格差是正のための先進国による取り組み、国際機構についての知識を習得している。 ・多文化主義について理解し、近年重視されるようになった背景を理解している。 	<p>経済的格差の解消を目指してグローバル化（均一化）が進んでいく一方で、文化的宗教的価値の多様性が重視されるようになってきている国際社会の二つの方向性を表現している。</p>	<p>発展途上国の支援、他国の文化の尊重を主体的に受け止めて思考している。</p>		

3月	第2章 現代社会の諸課題 情報	テーマ学習① 私たちにできる「最善」は何か？	1	私たちの消費と地球の裏側で起きている貧困問題が繋がっていることを理解させ、フェアトレードの仕組みを確認する。「効果的な利他主義」という考え方を学び、自らが援助できる最善の方法について検討する。	効果的な利他主義とは「功利主義」の立場のひとつである。P.10-11「功利主義と義務論」に立ち戻り、解説する。	・私たちの消費が貧困国の経済と関係していることを理解し、商品の選択における倫理的な視点を持っている。	・「効果的な利他主義」という考え方に基づき、自らができる「最善」について思考している。	身のまわりの商品が、どこで、誰が、どのように作られたものか関心を持ち調べようとしている。
		テーマ学習② コメは国産にこだわるべきか？		p.168-169で学習した自由貿易、保護貿易の考え方にに基づき、コメの自由化について検討する。比較生産費説によれば、自由化により各国が恩恵を受けるはずだが、現実にはさまざまな利害が絡むため、国益という大きな視点で判断することが重要であることを学ぶ。	比較生産費説は、比較優位と絶対優位を比較して解説すると理解しやすい。	・コメの自由化の是非について、比較生産費説、日本のコメ農家、食の安全保障など多面的に理解している。 ・日本の農業が保護されるだけの産業ではなく、比較優位な産業になる可能性について理解している。	・消費者の立場だけでなく、生産者、販売者、政府など多角的な視点からコメの自由化について表現している。	コメに関する政府の農業政策や、世界のコメの需要量などについて調べ、課題を発展させようとしている。
		01 つながりっぱなしの私		現代社会が膨大なメディアを介して無数の情報を受け取るメディア社会であることを学ぶ。メディアが人と人を接続する役割を持っており、インターネットやスマートフォンの普及がそれを爆発的に進化させたことを学び、自らとメディアとの関わり方について考えさせる。	自分が日々、どのようなメディアにどのくらい接し、何を得ているか、書き出すワークなどを行うとよい。	・メディアとはテレビやスマートフォンなどの単なる機器ではなく、情報環境そのものであることを理解している。 ・現代人はメディアを介して人とつながっていることから、社会や公共を考えるうえでのメディアの重要性を理解している。	なぜ人はスマートフォンにかじりついているのか、それを通じて何をしようとしているのか、自らとメディアの関係について考えている。	マクルーハンなどのメディア論に関心を持ち、より深く学ぼうという意欲が見られる。
02 インターネットは公共圏か？	1	メディアを言論空間として捉え、ハーバーマス公共圏(p.12-13)に思想とつなげて考えさせる。現実世界とネット空間は、コミュニケーションの場としてどのような点で異なるのかに注目させ、「フィルターバブル」という現象について学習する。	スマートフォンが使用できる環境であれば、実際に検索結果を比較し検証するとよい。	・ハーバーマスの公共圏の思想を具体的なカフェと結びつけて理解している。 ・ネット空間が公共空間であることを阻害するものとしてフィルターバブル現象を理解している。 ・ネットにつながりっぱなしの状態が引き起こす弊害を認識し、フィルターバブルの外に出る方法について考えている。	社会に生きる人間の多様性と、ネット空間の閉鎖性を理解し、ネットを公共的空間にするための方策について思考している。	フィルターバブルの外に出るための試みを実践しようとしている。		
災害時の情報発信と受信		災害時に迅速かつ正確な情報を受信、発信する方法について学習する。なかでもSNSが情報伝達の速さという点で有効な情報源だが、必ずしも正確ではない点に注意させる。	災害時には不安心理から、虚偽の情報を信じやすくなる点に留意させる。	・正確な防災情報、避難情報を素早く入手する手段について理解している。 ・情報格差について理解し、災害時に助け合うことの大切さを理解している。	災害時に信頼できる情報源を探そうとしている。	地域の避難経路などについて知ろうとしている。		

<p>第3章 持続可能な社会へ</p>	<p>社会研究の方法 1 演劇で表現する 2 地域社会と共に学ぶ 3 パリアフリー社会の実現を目指して 4 SDGs 実現のために私たちができること</p>	<p>2</p>	<p>■第3章の狙い この章は持続可能な地域、国家、国際社会を担う主体として、社会のなかに課題を見出し、これまで学習してきた公共的な見方・考え方をはたらかせ課題解決にむけて協働して取り組むことを狙いとしている。 その観点から実際の高等学校で試みられている活動を取り上げている。公共の学びが知識の習得、思考力や表現力の獲得にとどまらず、主体として社会に参画する場までつなげていくことを目指す。</p>	<p>公共の学習内容を「総合的な探究の時間」や課外活動、社会实践へつなげていく視点を持つ。</p>	<p>・1～4の高校の実践例を参考にし、社会課題の調査、表現方法、課題解決に向けた協働の方法などについて学習している。</p>	<p>公共で学習した内容や課題をもとに見方・考え方をはたらかせ、具体的な社会課題を見出し、これを適切に表現している。</p>	<p>他校の事例に刺激を受け、社会参画への意欲をとはじめている。</p>
-------------------------	--	----------	---	---	---	--	--------------------------------------